

学生の外国語能力向上に関する取組等

<教育学部・教育学院>

1. 学生の外国語能力向上に関する取組（2021年度以降入学者に適用）

1) 外国語能力の到達目標

- ・学部卒業時の到達目標：ESD等のように各国の学生が集う場において、英語で日常のコミュニケーションがとれるだけでなく、教育学に関する議論を英語で展開できるようにする。
- ・大学院修了時の英語力の到達目標：国際学会において、修士課程・博士後期課程を通じて複数回の発表を行い、専門学術領域に関する高度な議論を英語で展開できるようにする。

2) 外国語能力を向上させるために実施する取組

- ・英語をはじめとした外国語を使用する機会が少ないことが関係していることから、各研究室等に外国からの学生や研究者が訪問した際に、積極的に交流する機会を設ける。
- ・ESD関連プログラムへの参加率をさらに向上させ、英語での交流・議論が必然となる環境をより充実させる。
- ・特に大学院生については、学会発表奨励金もあることから、積極的に国際学会での発表を促していく。また、国際学会で発表した様子などを、ホームページなどを通じて広報し、学生間の意識を高める。

2. 学生の国際性を涵養できた実例

実例1

学生Aは、教育学部への入学と平行して新渡戸カレッジに入学し、留学支援英語、国際交流科目等により実践的な英語を学び、他文化交流科目の学修により、様々な国からの留学生と積極的に交流し、異文化理解力を深めた。また2年次には教育学部で行っているESDキャンパスアジア・パシフィックプログラムに参加し、ソウル国立大学の学生の本学への受入れ、訪問を通して、それまで培ってきた英語力を活かして活躍した。また3年次には大学間交流協定・交換留学プログラムによりスイスのジュネーブ大学に6ヶ月間の留学も経験した。現在は国家公務員として厚生労働省に勤務している。

実例 2

学生 B は、教育学部への入学と平行して新渡戸カレッジに入学し、留学支援英語、国際交流科目等により実践的な英語を学び、他文化交流科目の学修により、様々な国からの留学生と積極的に交流し、異文化理解力を深めた。また 2 年次と 4 年次の 2 回に渡り ESD キャンパスアジア・パシフィックプログラムに参加し、高麗大学と北京師範大学の学生と交流を深めた。また 3 年次には ESD グローバルパートナーシップ協働教育プログラムによりロシアのサハリン国立大学に 3 ヶ月間の留学も経験した。現在は日本政策投資銀行に勤務している。

実例 3

学生 C は、教育学部への入学と平行して新渡戸カレッジに入学し、留学支援英語、国際交流科目等により実践的な英語を学び、他文化交流科目の学修により、様々な国からの留学生と積極的に交流し、異文化理解力を深めた。また 2 年次に ESD キャンパスアジア・パシフィックプログラムに参加し、ソウル国立大学の学生と交流を深めた。現在は学部 3 年次に在学中であり、新渡戸カレッジにおいては成績優秀者に与えられる Summa cum Laude を与えられた。これらの活動を通じた英語力を活かし、大学院生を対象とした Summer Institution プログラムにも積極的に参加している。

実例 4

学生 D は、学部 2 年次に ESD キャンパスアジア・パシフィックプログラムに参加し、高麗大学の学生と交流を深めた。大その後大学院博士前期課程に進学と同時に新渡戸スクールに入学し、(財)北海道大学クラーク記念財団・海外留学助成を受け、フィンランドのオウル大学に 10 ヶ月間に留学した。帰国後は培った英語力を活かし、国際学会での研究発表を多数行っている。また研究室で受け入れた留学生のチューターを積極的に引き受けたり、国際交流科目のティーチングアシスタントなどを勤め、日本とは宗教的な背景が異なる文化圏の人への理解も深めている。現在は博士後期課程に在籍し博士論文の完成を目指すと同時に、東フィンランド大学の研究者とコンタクトを取ることで共同研究のための留学を勧められており、そのための準備を進めている。

実例 5

学生 E は、学部 3 年次に ESD キャンパスアジア・パシフィックプログラムに参加し、高麗大学の学生と交流を深めた。帰国後そこでの経験をもとに英語力の向上の必要性を感じ、大学院進学後は積極的に学会や大学の国際学会発表支援制度を利用して、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニアなど多くの国際学会に参加し多数の発表を行った。また研究室で行っている英語によるプレゼンテーションの練習プログラ

ムに積極的に参加し英語によるプレゼンテーション能力の向上に努めた。さらにそこでの経験を糧に海外からの研究者が研究室に訪問した際に研究室を代表して英語によるプレゼンテーションも多数行った。またそこで知り合ったイギリスの研究者の紹介により、デ・モンフォート大学への留学が決まった。現在は博士後期課程修了し、学内の研究機関にポスドク研究員として勤務している。その一方で日本学術振興会の海外特別研究員にも採用され、イギリスへの留学準備を進めている。